

北海道苫小牧市

建築廃材・災害倒木に付加価値をつけた製品を開発 地域貢献と循環型事業を確立

創業以来の事業である森林の伐採から植林までの林業を頂点に木製品関連の製造、販売と多種多様な事業を展開。産業廃棄物として処理されていた建築廃材や災害倒木等を活用したリサイクル製品「パーティクルボード」を国内で初めて生産、また、建築材に使用できない低質木材の付加価値向上にも取り組む。社内事業ではゼロエミッション化の環境経営に取り組み、持続可能なビジネスモデルを確立。

●所在地	北海道苫小牧市晴海町23番地1	●設立	1913年
●電話/FAX	0144-55-6811/0144-55-7497	●資本金	20,000万円
●URL	https://www.iwakura-corp.jp/	●従業員数	165人
●代表者	代表取締役社長 岡本 泰雄		



多岐にわたる海外ビジネスにより経営基盤を強化

同社は、木材資源の有効活用を目的に、歩留りが極めて高いパーティクルボードの製造技術をドイツから導入し、日本で初めて製造販売を行い国内新産業を創出。また、国内住宅市場で成長を続けるツーバイフォー住宅用部材を、カナダから直接輸入し、コスト競争力・収益性の強化を図る。その他、欧州より合板(OSB)の輸入販売も行っている。更に、経営基盤の強化を図るため、ピアノ用部材の輸出を中国に10年前から実施。近年は、国内メーカーを経由してアメリカ向けに部材を製造販売。



ツーバイフォー工場

地域資源を活用した高付加価値商品により地域経済へ貢献

主力商品であるパーティクルボードを製品化し、北海道内外に販売していることにより従来産業廃棄物として処理されていた地域資源に価値を付すとともに、地元行政や企業の処理費用の削減にも寄与し、地域経済活性化・地域課題の解決に高く貢献している。さらに、製材等で利用できない低質木材を、木質バイオマス発電・ボイラーの燃料としてチップ化し、北海道の林産業の活性化にも貢献している。



リサイクル製品「パーティクルボード」

異業種連携による付加価値商品の開発で新規需要を開拓

新規需要の獲得のため、異業種連携を推進している。コンビニエンスストア会社とは、店舗の新建築工法を共同開発し、約280店を建設。産学官連携及び特殊車両メーカーと、CO₂排出抑制・石油代替エネルギーとして期待される木質ペレットを活用したボイラーへのペレットの安定供給システムを開発し、自治体向けを主に年間1,500tのペレットを供給している。社内事業におけるゼロエミッション化といった環境経営の取組が、企業価値を向上させ、共感を得た企業との取引に至っている。



バイオマスエネルギー「木質ペレット」